

特55

466

新編裁判所  
各區裁判所  
勸解願心得

東京圖書館

新門 三一函

一一部 三架

類 四八二號

036624-000-0

特55-466

勸解願心得

西川 友喜/編

M11

BBS-0042



西川友喜編輯

新潟裁判所管  
内各區裁判所

勸解願心得

明治十一年  
四月出版

明八堂藏版

緒言

凡ソ各區裁判所ノ勸解ヲ願フ者ハ訴狀ヲ呈スルニ  
 及ビテハ其勸解ノ由ヲ申述スルヲ得必シモ  
 規程ニ依リテハ一定ノ書式ヲ要スル  
 事也然レモ世人或ハ其手續ヲ知ラサルヨリ勸解  
 至難ト速テ却テ至便ノ御仁旨ヲ通曉セ  
 者亦稀トセス仍テ各所ニ於テ現今魚被兩造ヨ  
 リ進達スル普通ノ書式及御規則ノ要旨ヲ掲ケ其手  
 續心得等ヲ蒐集シ以テ大方諸君ノ便覽ニ供セント

特選 55 60

欲ス

第一條

勸解ヲ願ハント欲スル片ハ第一号書式ニ倣ヒ  
被ノ名前書半紙壹枚ノ半面ニ認メ被告タル者居  
所管轄ノ區裁判所訴所ニ原告本人病氣其外事故  
ヲ申シ代人ト至親ニ持參シテ差出スヘシ

第二條

被告ヘノ喚出状ヲ御渡シニ付早速被告ヘ相渡シ

第二号書式ノ如ク受取證ヲ取ル事

第三條

區裁判所御門入ノ節名前書第三号書式ノ通認メ  
出シ御用液ノ節ハ又同様ノ名札ニ御用液ノ三字  
ヲ記入シ御挂リノ認メ印ヲ乞ヒ帰路ニ御門へ出  
ス此順序ニアラカレハ出入ヲ許サレス

第四條

証據タル書類ハ敷通アラハ皆持參イタシ勸解  
ノ御席ニ於テ御挂御尋ニ隨ヒ須次ニ差出ス御檢

却アリテ御下ケニ成リ被告出ル節ハ必ス持參シ  
又御尋ノ節直ニ出ス被告へ其証ヲ御尋問アリテ  
原告へ下ラル其後何ケ度出ルモ証據物ハ無相違  
持參スヘキ事

但証書無之モ實際明瞭タルハ必ス御勸解相  
成筋ニ付其情実ヲ詳細申速ルハ勿論外ニ証人  
アル力或ハ証據物品アラハ其旨ヲ上申スル事

第五條

御喚出当日午前第九時暑氣ノ節八午前第八時被  
告ハ勿論原告モ出頭ノト心得原告人相所ニテ  
被告ヲ尋置キ御尋込ニ隨ヒ御席ニ入り御調ヲ受  
ル事

第六條

御喚出当日被告人不參セシ時八午前第十一時  
相尋込ニ被告ノ名称ヲ呼テ寫シ相尋子若シ見  
当ラサルニ於テハ不參ノ旨ヲ御挂工上申シテ不  
參ニ付御呼出願ヲ第四号書式ノ通り認メ午前第  
十一時限トイヘモ土曜日前十時限訴所へ差出スヘシ

第七條

訟庭ニ出ル節ハ魚被共心ス実却持参スル事

第八條

貸金其他ノ支件ト虽凡被告ヨリ延期ヲ願ヒ原告  
之ヲ義務スルニ於テハ其旨速却ノ書面ヲ以テ御  
挂ハ差出ス事

第九條

御説諭後御勸解ニ基キ願下力ニ至候ハク第五号  
書式ニ照準シ認上ル事

第十條

勸解ノ魚被告人病氣其外事故有之出頭難致節至  
親又ハ立リタル雇人無之節ハ第六号書式ノ如ク  
該區戸長ノ公証ヲ受タル代人願書ヲ差出スヘシ  
亦モ至親雇人ニ拘ハラス代人タル者ハ第七号  
書式ノ委任状ヲ渡スヘキ事

第十一條

魚被御説諭ニ應シ和解相成ラサル節ハ其旨魚被  
ヨリ申立レハ勸解不調ト相成ル事

第十二條

原被身代限ヲ以テ液方示談行届キ候片ハ其旨連  
印ヲ以テ御挂へ届出勸解ヲ願下スル丁即第八号  
ノ書式ニヨルヘシ

第十三條

兼テ御布達アリテ衆庶ノ知ラル、所ナレ尼尤ニ  
新潟裁判所管内各區裁判所ノ御規則ヲ掲クル十  
リ

第一條 民事ノ訴詔ハ金額百円以下ナリトス

第二條 刑事ハ懲役百日以下ナリトス

但新發田村上糸魚川柏崎六日町區裁判所ハ  
当分本文權内ニアル禁獄贖罪叔贖ノ之ヲ取  
扱ヒ新潟高田長岡相川區裁判所ハ本文權内  
ニアル禁獄贖罪叔贖之外当分懲役五十日以  
下ノ実断ヲモ取扱フモノトス

第三條 民事ニ於テ控訴スル者ハ明治八年第

九十三号布告ニ照シ直チニ東京上等  
裁判所へ出タスヘシ

第四條

違警罪ヲ除クノ外刑事ニ於テ上告スル者ハ明治八年第九十三号布告ニ照シ直子ニ大審院ニ出タスヘシ

第五條

勸解ヲ乞フ者ハ訴状ヲ作ルニ及ハス直ニ該廳ニ願出其事由ヲ陳述スルヲ得ヘシ

第六條

勸解ハ双方必ス本人自ラ出頭スヘシ但疾病事故等ニテ已ヲ得ケル片ハ其代トシテ親戚又ハ定リタル雇人出スヘシ

第七條

凡勸解ハ必スシモ定規ニ拘ハラサル者トス但勸解ト雖モ其不參若シクハ違參ニ係ル者ハ裁判所成規ニ據リ處分スヘシ

書式雛形概畧  
○訴所へ出ス名前書用紙半紙  
壹枚ニツ折

第一号

貸金滞力 品物取戻力 約定違害力 其外何カ	新潟縣弟何大小區何柵何番地 原告人 身分 何ノ某印	勸解願	日縣弟何大小區何柵何番地 被告人 身分 何ノ某	年号月日
--------------------------------	------------------------------------	-----	----------------------------------	------

但二度目ハ出スニ及ハス



○御呼出状被告へ相渡シ左ノ証ヲ  
取ル用紙半紙一枚ニ認ム

記

一御呼出状

壹通

第 二 号

右正ニ受取申候明何日何所區裁判所へ  
我等ヨリ御呼出状返上仕候依テ受取証  
如件

新鴻縣第何大小區何柵何番地

年号月日

何ノ某印

何之某殿

○御門へ出ス名前書用紙同上

第 三 号

新鴻縣第何大小區何柵何番地

原告方

何之某

被告方

何某ヨリ  
何某へ相係ル何々之件

年号月日

○不参ノ節御呼出シ願ノ案用紙日上

第 四 号

弟何十何百何十何号

何某殿御挂リ

弟何大小区何柳何菴

不参御届ケ

被告人 何ノ誰

御呼出願

右ハ本日<sup>延期</sup>之處不参仕候ニ付明何日本入

御呼出被成下度奉願上候以上

弟何大小区

何柳何菴地

原告人 姓名印

年号月日

何區裁判所長

判事補何ノ某殿

右ハ訴所ハ出ス

但被告代人ナレハ被告代人何ノ誰ト認ム

原告代人ナレハ何ノ誰代理ト肩ニ記シ

上ニ原告代人トス

○ 液口書ノ案 用紙半紙壹枚ニ認ム

第 五 号

弟何号

某殿御挂リ

弟何大小區

何柵何番地

原告人

何ノ誰

貸金滞力  
品物取戻力  
約文違察力  
何々々力

勸解液口御届

弟何大小區

何柵何番地

被告人

何ノ某

自分ヨリ何年何月何日何々之儀御勸  
解奉願候殿御説諭ニ基キ液方相成候若  
領下レバ何々ノ事故ニ此段申上候以上  
依リ願下仕座

年号月日

右 何之誰  
右 何之誰

何區裁判所長

判事補何某殿

右ハ訃所へ出ス

○至親又ハ雇人無之節他ノ代人ヲ以テスル時ノ  
書面用紙日上

代人願書

弟何大小區

何柵何番地

何又誰

第

私儀何大小區何柵何番地何某

△工相挂リ何事件ノ勸解出願ニ付罷出ヘクノ原

○ヨリ何事件ノ勸解被願出御呼出ニ付罷出ヘクノ

病氣ニテ外代人ニ差出スヘキ者モ無之前書

何ノ某明友カ  
惡意カ之者ニ付同人差出候間代人

又儀御聞届奉願候以上

号

六

年号月日

弟何大小區何柵何番地

原告人 何ノ誰印

前書之通相違無之ニ付真印候也

弟何大小區

戸長 何ノ某印

何區裁判所長

判事補何某殿

右ハ詔所へ出ス

但 原告ハ△印ニヨリ  
被告ハ○印ニ做

○頁被告入病氣或ハ事故有之代人可差出節  
委任状之案証券畧紙ニ誌ス

委任状

拙者儀 病氣ニ付カハ父兄弟中 何ノ某ヲ以テ  
事故有之カハ收領力  
部理代人ト之メ拙者ノ名義ニテ左ノ  
權限ノ事ヲ委任致シ候事

何柵何番地 工相挂リ何事件ノ勘解出額ニ付一  
件落着迄取扱ノ事  
ヨリ何事件ノ勘解被願出候ニ付  
右ニ件落着迄取扱ノ事

右代理委任状依テ如件

第何大小區何柵何番地

身分

何某印

年号月日

第七号

但本文被魚○△ニ依リ印ノ如ク認ムル

○身代限濟口示談ノ業 用紙半紙壹枚ニ認ム

第何号

某殿御挂

第何大區何小區  
何柵何番地

何々勸解

原告人

何某

濟口御届

日  
日

被告人

何某

第 八 号

私共何々儀御勸解奉願厚キ御説諭ニ  
基キ被告人儀償却方相并候度金子調  
達相成兼候ニ付身代限ヲ以テ渡方致候  
害ニ示談行届候間此段御届申上候以上

年号月日

右 何ノ誰印  
右 何ノ誰印

何區裁判所長

判事補何々某殿

古訴所へ出ス

新潟裁判所各支廳并區裁判所管轄區分

新潟裁判所

高田支廳

長岡支廳

相川支廳

新潟區裁判所

新發田區裁判所

村上區裁判所

高田區裁判所

糸魚川區裁判所

長岡區裁判所

柏崎區裁判所

六日町區裁判所

相川區裁判所

第一大區ヨリ三大區迄

第十八大區ヨリ廿五大區迄

第七大區ヨリ  
第十一大區迄

第四大區ヨリ六大區迄

第十二大區ヨリ十七大區迄

第廿六大區ヨリ  
第廿八大區迄

第一大區ヨリ三大區迄

第十八大區ヨリ廿一大區迄

第廿二大區ヨリ三大區迄

第廿四大區ノ内小二區ヨリ小七區迄

第廿四大區ノ内小八區小九區

第廿五大區

第十七大區八大區十六區  
第十一大區

第九大區

第十四大區ヨリ十七大區迄

第四大區ヨリ  
第六大區迄

第十二大區  
第十三大區

第廿六大區ヨリ  
第廿八大區迄

明治十年十二月八日版權免許

定價八角

青森縣士族

編輯人

西川友喜

當時新瀉縣第一區小二區  
新瀉本町通七番町第七十三番地寄留

新瀉縣平民

吉川成藏



出版人

日縣同大區小二區  
新瀉本町通七番町第五百九十二番地



